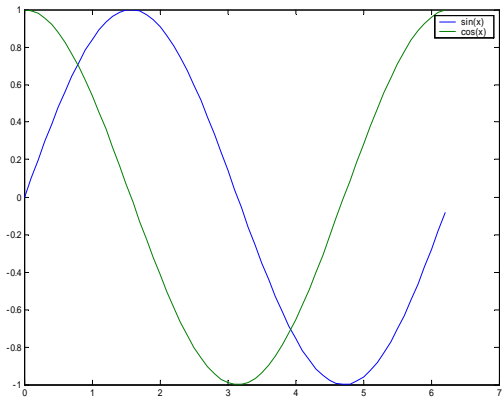


legend 関数

legend コマンドをつけるとグラフに凡例をつけることができる。

たとえば、

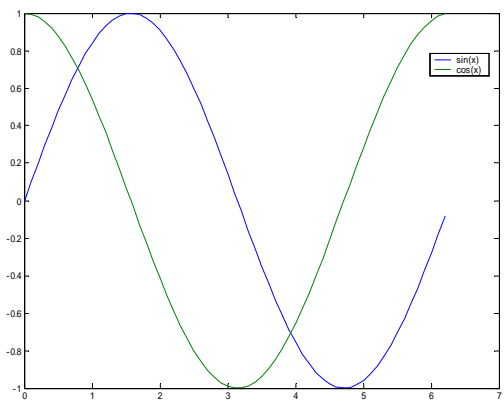
```
>> x=0:0.1:2*pi;plot(x,sin(x),x,cos(x));legend('sin(x)','cos(x)')
```



この場合、凡例の位置は、右上に出る。ちなみにこの凡例は、マウスにより凡例を左ボタンによりセレクトした状態でドラックすると希望の場所に移動できる。

また、legend 関数の最後のパラメータに数字を指定すると凡例の位置を設定することができる。たとえば、0 を指定した場合には、

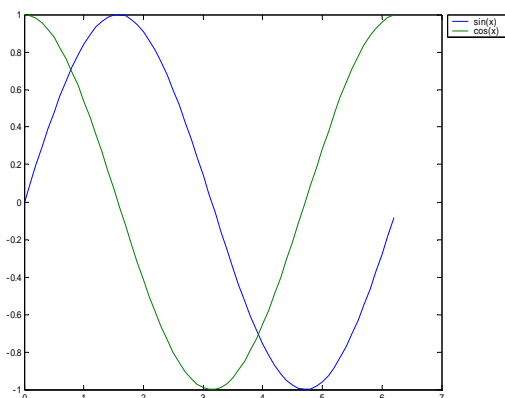
```
>> x=0:0.1:2*pi;plot(x,sin(x),x,cos(x));legend('sin(x)','cos(x)',0)
```



このように自動的に線に重ならない最適な（？）場所に表示してくれる。

また、legend オプションに、-1 をつけると、

```
>> x=0:0.1:2*pi;plot(x,sin(x),x,cos(x));legend('sin(x)','cos(x)',-1)
```



と、グラフの軸の外に凡例を表示する。
 legend 関数の最後の数値パラメータをまとめると、

0	できるだけデータと重ならないような"最適な"位置
1	軸の右上隅(デフォルト)
2	軸の左上隅
3	軸の左下隅
4	軸の右下隅
-1	プロットの右

のようになる。